

## 第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

### ① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

### ② 評価調査者研修修了番号

sk2024099

sk2024096

s2024033

### ③ 施設名等

名称：	エリザベス・サンダース・ホーム
施設長氏名：	一寸木 智文
定員：	89名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	

#### 【施設の概要】

開設年月日	1948/2/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人エリザベス・サンダース・ホーム
職員数 常勤職員：	35名
職員数 非常勤職員：	6名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	20名
有資格職員の名称（イ）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	8名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	公認心理師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	看護師、里親支援専門相談員、自立支援担当職員
上記有資格職員の人数：	各1名
有資格職員の名称（カ）	家庭支援専門相談員
上記有資格職員の人数：	2名
施設設備の概要（ア）居室数：	男子寮4、女子寮3、男女混合寮2
施設設備の概要（イ）設備等：	面談会議室2、医務室、地域交流室、親子訓練室、図書室
施設設備の概要（ウ）：	子育て支援短期居室、心理療法室
施設設備の概要（エ）：	

### ④ 理念・基本方針

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい（ローマ信徒への手紙12章15節）

#### <事業目的>

日本聖公会の伝えるキリスト教精神に基づき、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的として、社会福祉事業を行う

#### <運営理念>

キリスト教精神に則り、子どもたちの人格と個性を尊重するとともに、一人ひとりの自己実現を図り、豊かで広い知識と教養を身につけて成長し自立した社会人として地域生活が送れるよう支援する

#### <運営指針>

- ・キリスト教精神に基づく福祉事業として児童養護施設を運営する
- ・子どもの権利を擁護し、人として尊重され、かつ安全で安心した日常生活を営むことを保障する
- ・社会人としての自立した地域生活を営めるような、困難に負けない心と身体を育成する
- ・成長過程のそれぞれの状況に合わせて自分らしく生活できる環境を用意し共に生きる力を育てる

### ⑤ 施設の特徴的な取組

○子どもの権利擁護については、「就業規則」や「生活支援ハンドブック」に明記し、各寮に置いて、職員が内容を確認できるようにしている。年2回、県のこどもの意見表明支援事業で、「チームあどぼ（専門員のチーム）」の訪問があり、こどもと話をする機会を設けている。また、年2回、こどもが希望する職員と話をする「ESH（イー・エス・エイチ）」を行っている。こどもたちは、担当ではない職員だからこそ、話せることがある。寮内でのこどもたちの関係や困っていること、誰にも言えないことなどを聞き取り、権利侵害の防止と早期発見につなげている。

○こどもが主体となり、検討したいことなどを話し合う「子ども会」を開催している。子ども会は、小学生会、中学生会、高校生会と、年齢に分かれて開催している。話し合いには職員も参加し、内容は職員間で共有している。「小遣いを値上げして欲しい」「被服費を増やして欲しい」などの意見に対し、内容を検討して対応している。実施が困難なことは、何故難しいのか、わかりやすくこどもたちに伝えている。個別支援計画には、次年度の目標やどのような生活を送りたいか、こどもが自分自身で考えたことを記載している。

#### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2025/9/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2026/2/12
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和4年度（和暦）

#### ⑦総評

○キリスト教の精神に基づき、戦後まもなく設立された歴史のある児童養護施設で、こどもたちは、男子寮や女子寮、男女混合寮など8つの寮に分かれ、日々の生活を送っている。自然に恵まれた環境の中、こどもたちはのびのびと生活し、職員は創設者の「ともに生きる精神」を受け継ぎ、こどもたちと一緒に遊び、こどもたちの思いや声に耳を傾けている。

○職員室（夜勤室）を中にして、2つの寮が左右対称につながった作りになっており、緊急時には隣りの寮の応援ができるようにしている。各寮には、リビングやキッチン、大小の浴室や洗濯室がある。こどもたちの部屋は1階と2階にあり、1、2階は吹き抜けの作りで、こどもたちの部屋が見渡せるようになっている。リビングは広く、各寮で、テレビや家具のレイアウトを決めている。こどもたちの部屋は、好きなキャラクターのぬいぐるみを置き、写真やポスターなどを貼り、それぞれが居心地のいい空間を作っている。こどもたちは自分の部屋は自分で管理し、整えるようにしている。片付けが苦手なこどもには、必要に応じて職員が介入して支援している。

○ホーム内のグラウンドには、サッカーゴールやバスケットゴール、アスレチックジムがあり、こどもたちが外遊びを楽しめるようにしている。低年齢児用に、ブランコも設置している。各寮には、絵本やおもちゃなどを置き、年齢に合った遊び道具で遊べるようにしている。各寮にはこども用のタブレットもあり、動画を見たりしている。受験を控えた中学生は、塾に通っているこどももいる。ピアノや剣道、絵画、スイミング、サッカーなどの習いごとに通っているこどももいる。

○こどもたちは、さまざまな背景を抱えて入所している。時には、イライラする気持ちや怒りをぶつけてくるこどももいる。職員はこどもの怒りを受け止め、こどもが落ち着いて話ができる場で、気持ちを聞くようにしている。こどもの苦しさを受け止め、こどもに寄り添って、話を聞いている。また、話を聞く職員を変え、誰なら落ち着くことができるのかなどを観察して、職員間で情報を共有し、原因を探るようにしている。

○食事は給食室で調理したものを、毎食、職員が受け取りに行き、各寮に運んでいる。食べたことのない食材や偏食には、食べられるものから食べてもらい、小さなこどもには「給食さんが作ってくれたから、少しだけでも食べてみよう」と声をかけている。食事は、こどもたちのコミュニケーションの場になっている。食物アレルギーのあるこどもには、除去食を提供している。栄養士が献立表にチェックし、職員は情報を共有して対応している。栄養士は検食簿を確認し、月1回の給食委員会で各寮のこどもの希望を聞き、献立に反映している。日曜日には、職員と一緒におやつ作りを楽しんでいる。誕生日には、各寮で誕生日パーティーを開いている。クリスマス会も各寮で行っている。

○こどもたちは、それぞれの居室で学習している。図書室の利用や、寮にはパソコンを設置し、パソコンを使って調べものをすることもできる。週1回、宿題勉強会を開き、職員がこどもたちの勉強を見ている。こどもたちの学力を把握し、それぞれに応じた支援に取り組んでいる。こどもが通う学校とは、月1回、連絡会を行い、担当職員と学校の先生とで連携を取っている。

○こどもの進路の決定は、自立支援担当職員を中心に支援している。敷地内に小・中学の学校があるが、どの学校に進学するかは、自分で選べるようにしている。進路の選択は、関係する大人が集まり、自立支援検討会議を開催し、一人ひとりのこどもが適正に進路の決定ができるようにしている。中学生は、2年生頃から高校進学について、担当職員と話し合いを始めている。希望する学校の情報を集め、こどもが具体的に考えられるようにしている。大学進学を希望するこどもには、奨学金制度の活用など、情報を提供している。

#### ⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

職員の離職率が減少しており、経験年数が全体的に上がってきている中で、職員個々の各セッションの評価がより専門的に分析されている傾向があり、施設の課題が以前と比べ、細分化されている。全体へのフィードバックは、評価結果を評価案と比較する事でプラスの側面に気づくことを目的としている。施設の発展、質の向上につながるものとして有効活用することで、より良い施設づくりに向けた具体的取り組みの実現を目指していく。

#### ⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

### 第三者評価結果（児童養護施設）

#### 共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

##### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
-------------------------	-------------

①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、こどもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	

【コメント】

法人の運営理念や運営方針はホームページやパンフレットに記載するとともに、玄関に掲示している。また、事業計画書の冒頭にも記載し、職員会議で職員に周知している。運営理念に基づいた統一した支援を提供するため、「生活支援ハンドブック」を作成しているが、今年度より内容の見直しを始めている。見直しにあたっては、それぞれの寮にハンドブックの一部をプリントして配布し、全職員の意見を集約している。こどもたちには、入所の際に、施設独自の「権利ノート」を作成して渡し、内容を説明する中で、法人の運営理念にも触れている。

## 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの数・こども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とするこどもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とするこどもの推移、利用率等の分析を行っている。	

【コメント】

月1回、施設長や各ブロックのリーダー、専門職のリーダーが集まり、調整会議を開催している。調整会議では、入所数の把握や暫定定数、運営状況の確認などを行っている。調整会議の検討事項は、同じく月1回開催する職員会議の場で、職員に周知している。職員会議は、非常勤の職員を含め全職員が参加している。また、調整会議の前には、ブロック会議を開催して、職員の声を集約している。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

【コメント】

職員会議や調整会議、部署別会議を定期的で開催して、職員全体で課題に対して具体的な取り組みを進めている。経営状況や改善すべき課題は職員に周知している。こどもたちの支援に直接関係する生活支援部門の課題としては、中・高校生のお弁当は各寮で作っているが、冷凍食品がメインであること、こどもたちに家事を教えているが、寮や職員によって教え方がばらばらであることなどが挙げられている。

## 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
-----------------------------	-------------

①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設の中・長期的な計画である建物の改修や、地域に向けた施設機能の開放については、職員会議の場などで具体的な取り組みを検討している。建物の改修では、工事の内容や進め方を話し合っている。施設の機能開放では、最寄り駅から近い立地条件を活かして、相談の場やこどもの一時預かりの場などを検討している。平日の朝は、水曜日を除いて朝礼を行い、夜間の各寮の様子や一日の予定を職員が共有する他、週1回、朝礼の後に全体会を開催して、職員が気軽に意見を言うことができる場を作っている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

中・長期の計画を踏まえ、単年度の事業計画を作成している。こどもたちの支援に関する項目では、事業計画に支援方針を示している。今年度の支援方針には、①こどもの権利を擁護する、②個性に応じて養育する、③豊かな経験や体験の機会を創出する、④自立した生活を支援する、⑤より良い衣食住生活を保障する、⑥健康を維持する、⑦自己肯定感を育むの7点をおき、具体的な計画を作成している。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

事業計画は、職員会議などの場で、職員の声を聞き、作成している。また、ボランティア委員会や防災委員会、環境整備委員会などの委員会や、地域行事や招待行事などの各係からの案も盛り込んで作成している。各寮には、毎月、部屋費が支給されていることから、年間の寮の計画についても、職員が真剣に検討している。部屋費は、各寮に1年間平等に支給されており、どの月に何に使うかは担当者が決めることができる。部屋費については、予算委員会が全体をまとめている。

②	7 事業計画は、こどもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、こどもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容をこども会や保護者会等で説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、こどもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、こどもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

事業計画は、こどもや保護者に説明までは行っていない。こどもたちには、小学生会や中学生会、高校生会などの子ども会があり、月1回定期的に開催している。子ども会では、こどもたちの意見や希望を聞く他、行事の内容についても検討している。寮によっては、部屋会議を行っているところもある。行事は各寮にお知らせの紙を配り、こどもたちに周知している。保護者への連絡は、児童相談所を介することが多い。

#### 4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

ブロック会議や調整会議、職員会議などを定期的で開催して、養育・支援の質の向上に向けた取り組みを組織的にしている。また、権利擁護委員会や研修委員会などの各委員会も、それぞれが積極的に活動している。福祉サービス第三者評価の受審も、施設全体で取り組んでいる。こどもたちも、自分の生活面などの年間目標を「来年の目標」として立て、毎月、「月のまとめ」で進捗状況を確認し、年度末には、「年度のまとめ」として評価して、次年度の目標につなげている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

振り返りの結果から、職員間のコミュニケーションの大切さをあらためて感じている。良好なコミュニケーションを取るにはどうしたらよいか検討し、内部研修にグループワークなどを取り入れている。また、会議などで発言する職員は決まっているので、「会議のルール」を決めて、誰もが発言できるようにしている。こどもたちとの面接の機会も増やし、こどもたちは、誰に相談するか自分で選ぶことができるようにしている。

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

各寮のブロック会議には参加していないが、朝礼や調整会議、職員会議には施設長が参加している。職員会議では、会議の最後に施設長からの話の時間を設け、職員全体に伝えたいことなどを話している。また、年1回発行する広報誌「かけはし」には施設長の言葉も掲載して、関係機関に配布している。普段から、こどもたちとは、よく話を交わしている。施設長不在時の権限は、専門支援部門のリーダーに委嘱している。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

全国児童養護施設協議会の連絡会や、県内の児童養護施設の研修会に施設長が参加して、遵守すべき法令などを正しく理解するようにしている。職員に必要な情報は、職員会議の場で、職員に説明している。施設長からは、法令に関することや、施設の多様化に対する今後の見通し、防犯関係の話、不適切な関わり、こども個人への関わりなどの話がある。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

施設長に就いて3年目となる。こどもたちとは、特に年齢の高いこどもから、施設長面接を行い、こどもたちの声や思いを確認している。施設はあくまでもこどもが中心で、こどもの意見をできるだけ取り入れるよう取り組んでいる。また、年1回、意向調査も兼ねて、職員との個人面談を行い、職員の思いを確認している。職員からの相談は、リーダー職員が受けることが多いが、職員には何かあればいつでも施設長に相談ができることを伝えている。職員の教育に関しては、研修委員会を中心にして行っている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

以前は体制検討委員会を置いていたが、現在は体制などの不満は出ていないため、委員会は置いていない。施設長を中心に、施設の現状を分析し、環境の整備に取り組んでいる。施設の敷地は広大で樹木が多いことから、これまでは職員が邪魔な部分を伐採していたが、現在は専門の業者を入れ、計画的に手入れを行っている。また、建物の老朽化に対しては、リフォームを行い、壁の塗り替えや貼り替えを行う他、トイレをウォシュレットに替えたりしている。

## 2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
<p>① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。</p> <p>(社会的養護共通)</p> <p><input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>施設長と事務を担当として、職員の募集を行っている。求人募集は必要に応じて行い、突然の人員減少や欠員に対応しているが、すぐに応募がくるとは限らず、また、応募者が適任か判断するのに時間を要するため、人材の確保はきびしい状況が続いている。施設の多様化を目指しているが、児童養護施設で働きたい人材の確保には限界もある。実習依頼のある学校との連絡会に参加し、職員の母校で説明会を行ったりする他、就職に向けた施設の見学会を開催している。</p>	
<p>② 15 総合的な人事管理が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。</p> <p><input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>人員基準に関しては、職員への周知が十分でないこともあり、基準の見直しが必要との意見が出ており、現在、改定に着手している。非常勤職員を含めた職員と施設長の個人面談は、意向調査を兼ねて、毎年、9～10月に実施している。個人面談の中の職員の個人的な話は、あくまでも施設長が内容を把握している。</p>	
<p>(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。</p>	
<p>① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。</p> <p><input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p>	

働きやすい職場作りに努め、毎月、休みの希望を受け、シフト表に反映している。シフト表はブロックのリーダーが作成している。また、家族の中に体調不良の人がいる時には、休みを取りやすいようにしている。有給休暇の取得は、職員が順調に消化している。また、年1回、職員が1週間程度の長期休暇が取得できるようにしている。職員のほとんどが、有給休暇と定期休暇を使って、長期休暇を取得している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

目標管理制度は取り入れていない。職員のスキルアップは当然必要なため、内部研修や勉強会を開催して研鑽している。施設長と職員の定期面談を行う他、適宜ブロックリーダーが職員と面接している。施設が期待する職員像は明確ではないが、リーダー職員としては、こどもに寄り添える職員、こどもをきちんと養育できる職員であってほしいと考えている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

施設長と研修委員で、職員研修を担当している。外部から研修の案内が届いた時は、職員に情報を提供して参加者を募っている。また、職員の経験年数やスキルに合わせて、参加者を決めている。内部研修についても、施設長と研修委員が担当し、2ヶ月に1回、勉強会を開催している。勉強会は、大学の先生や他施設の児童心理士を講師として招き、職員間のコミュニケーションやこどもへの支援の2つを柱にテーマを決めて開催している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	

【コメント】

外部研修の参加は職員によってばらつきがあるが、職員が年1回は外部研修に参加できるようにしている。外部研修参加後は、研修報告書を提出し、内容によって、職員会議で伝達研修を行っている。職員会議の中に、「研修報告」の時間を設けている。また、月1回、外部の心理士が施設を訪れ、職員を中心にスーパービジョンを提供している。職員に対するスーパービジョンは、月に2～3人の職員が受けている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習担当を2名置き、実習生の受け入れを行っている。保育士を中心に、心理士などの実習生を、年間20～30人程度受け入れている。実習生を育てようとする職員の意識は高く、実習生の受け入れに関して、特に問題は発生していない。以前は実習生から就職につながったケースがあったが、現在は就職したケースはほとんど見られない。受け入れに関しては職員の負担もあるが、今後も引き続き、実習生を受け入れていく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	第三者 評価結果 a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

ホームページに、運営指針や施設の暮らしを掲載し、運営の透明性を確保する情報の公開を行っている。また、年1回、広報誌「かけはし」を発行し、関係機関や関係者に配布している。広報誌「かけはし」は、広報委員会が作成している。また、広報委員会では、SNSの担当を決めて、活用の準備を進めている。地域に対しては、町主催の社会福祉大会に参加して、施設のブースにて、取り組みの内容などをアピールしている。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

監事による定期的な監査の他、外部の会計士による中間監査を実施し、公正かつ透明性の高い適正な運営に取り組んでいる。また、顧問弁護士や社会保険労務士にいつでも相談ができる体制を整えているが、特に弁護士などに相談したケースはない。

#### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 こどもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> こどもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設やこどもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々のこどものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】 町民ソフトボール大会や大磯祭礼など、地域が開催する行事には、こどもたちや職員が積極的に参加している。お祭りでは、中学生や職員がお神輿を担いでいる。現在、地域の人を招待する施設行事は行われていないため、今後は検討する必要があると捉えている。学校の友だちの訪問は、事前に話をしてもらい、寮内には入らず、基本的に施設の庭で遊んでもらっている。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対してこどもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
【コメント】 ボランティアの受け入れマニュアルを整え、施設長とボランティア委員会で、ボランティアの受け入れを行っている。コロナ禍前には、清掃や遊具の設置、折り紙、木工、コンサート、リフォーム、遊びや学習を行ってくれる大学生など、多くのボランティアの活動があったが、コロナ禍後は、学習ボランティアの受け入れしかなく、コロナ禍前のように、ボランティアを受け入れたいと考えている。外部からの招待行事は数えきれないくらいあり、招待行事担当の職員を置いている。		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々のこどもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がいない場合には、こどものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○
【コメント】 児童相談所とは、随時、連絡を取って連携している。連絡会には、施設長やリーダー職員が参加している。小・中学校や認定こども園との連絡会には、連絡会担当の職員が参加している。また、災害時に緊急一時避難所として活動できるよう、町と話し合いを進めている。		
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b

	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通じて、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	

【コメント】

児童相談所や小・中学校、認定子ども園との連絡会や、町との話し合いを通して、地域の福祉ニーズの把握に努めている。地域では子育てのニーズが高く、特に隣接する市には、児童養護施設がなく、ニーズがとても高い。今後は、施設の多様化として、地域の子育て相談や一時保護に対応していく必要があると捉えている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

同一法人ではあるが、認定子ども園の子どもたちには、施設の庭を遊び場として提供している。コロナ禍前には、地域の幼稚園の懇談会に会議室を提供していたが、現在は中止している。今後、どう対応していくかは未定である。今後は、地域に特化した里親支援が必要と捉えている。また、災害時の対応では、緊急一時避難所として活動できるよう、町と話し合いをさらに進める必要があると捉えている。

### Ⅲ 適切な養育・支援の実施

#### 1 こども本位の養育・支援

(1)	こどもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果
①	28 こどもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、こどもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

園の理念や運営指針に基づき、こどもたちの権利を擁護し、ともに生きる精神を基本として、職員はこどもたちと向き合っている。各寮のブロック会議や調整会議などを定期的に開催し、支援にあたっての姿勢を確認している。さらに、具体的ケースをあげて、先輩職員のアドバイスを受け、自己の対応を振り返っている。また、大学から講師を招いて研修会を開催したり、県児童福祉施設職員研究会の研修会に参加したりしている。

②	29 こどものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> こどものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○

<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どものプライバシーの保護は、「生活支援ハンドブック」に記載している。小学校低学年までの子どもの入浴は、職員が浴室と一緒にいることはあるが、小学校高学年からは、子どもたちが一人で入浴している。入浴の習慣がほとんどなかった子どもには、職員と一緒に入り、洗い方を指導したりすることもある。子どもたちの居室には、本人がいない時には入らず、用事がある時は、必ずノック、声掛けしてから入室している。学校の友だちが遊びに来ることもあるが、寮内には入らず、施設の庭で遊んでいる。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特徴等を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	

【コメント】

ホームページやパンフレットで、支援の情報を提供している。また、書籍などで施設の歴史や、支援の目的などを知らせている。見学者に対しても、資料を用意して施設を紹介している。職員の採用に向けた見学会にも、パンフレットなどを作成している。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

児童相談所から入所依頼があると、各寮で受け入れが可能かどうか話し合いを行っている。施設の説明は、児童相談所のケースワーカーが主になり、子どもと保護者に説明している。その後は、本人が見学に来たり、職員が児童相談所に面会に向かっている。子どもの入所時には、担当職員が本人と一緒に衣類などの買物に出かけている。乳児院からの入所の場合は、乳児院の職員が送ってくることが多い。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設の生活に馴染めず、学校の集団生活も難しいため、措置変更で他施設に移るこどももいる。引継ぎは文書で行い、また、担当職員と一緒に付き添い、引継ぎをしている。家庭に復帰したこどもも数人いるが、家庭での生活がうまくいかず、他の施設に再入所したりすることもある。変更にあたっては、児童相談所が関わるが多く、こどもが安心して生活できるよう、情報を提供していくことが重要と考えている。

(3) こどもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

①	33 こどもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> こどもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもへの個別の相談面接や聴取等が、こどもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、こどもの満足を把握する目的で、こども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、こども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

権利擁護委員会がまとめている「子ども会」には、小学生会、中学生会、高校生会がある。こどもたちは、子ども会の中で、やりたいことや食べたいもの、変えてほしいことなどを話し合っている。こどもたちの意見や希望は、各ブロック会議で検討している。施設全体に関わる内容は、職員会議の場で検討して解決するようにしている。年2回、楽しかったことや嫌だったこと、施設のこと、学校のことなどの10項目についてアンケートを行い、アンケート後に、自分が選んだ職員と話をする機会を設けている。

(4) こどもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料をこどもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、こどもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、こどもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出たこどもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

こどもたちが意見や苦情を表出しやすいよう、意見箱を設置している。意見箱の管理は施設長と心理士としているが、意見箱には何も入っていないことが多い。こどもたちは意見箱に入れる前に、職員に伝えたり、子ども会で思っていることを話したりしている。各寮に門限があるが、施設の庭には時計がないなどの意見があり、ブロック会議や職員会議で検討し、事務所棟の上に時計を設置している。

②	35 こどもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、こども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> こどもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由を選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

月1回、小学生会や中学生会、高校生会の子ども会を開催している。また、年2回、楽しかったことや嫌だったこと、施設のこと、学校のことなどの10項目についてアンケートを行い、アンケート後に、自分が選んだ職員と話をする機会を設けている。こどもたちからは、小遣いを上げてほしい、外出範囲を広げてほしいなどの意見が出ている。アンケートは夏休み前と冬休み後に行っている。こどもたちからは、さまざまな意見があがっている。

③	36 こどもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、こどもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、こどもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

こどもたちの意見や希望は、各ブロック会議や職員会議で、内容を検討している。こどもから、具体的な場所をあげ、外出範囲を広げてほしいという希望が出ているが、これまでは治安の問題などで外出範囲に入れていなかった場所でもある。場所については、職員からもこどもたちに投げかけて、意見を聞いている。こどもからの意見ではないが、これまで小学校2年生までは、異性の職員も入浴の指導を行っていたが、異性職員は幼児までとして、小学生からは同性の職員が指導することに変更している。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者  
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

施設全体が緑に溢れているため、台風の後には倒木などがあり、また、木々が多く見通しが悪いため、専門業者に樹木の伐採を依頼している。防犯カメラは事務所棟の前と駐車場の2ヶ所に設置している。夜間はタヌキやハクビシンが出没するため、こどもたちの夜間外出は禁止し、崖の近くなど危険な場所には近付かないよう、こどもたちに伝えている。支援場面では、投薬忘れなどのヒヤリハットがあり、確認方法を変更して職員間で共有している。

②	38 感染症の予防や発生時におけるこどもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直ししている。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

「生活支援ハンドブック」に、こどもが罹患しやすい感染症や新型コロナウイルス、インフルエンザなどを記載し、対応策も載せている。感染症の好発期には、看護師が注意点などを書面にまとめ、各寮に配布している。小さいこどもには、手洗いの方法など、写真で分かりやすく説明したものを渡している。感染症の予防には、手洗いやうがいを励行している。感染症が発症した時は、空き室などを活用して、蔓延を防止している。

③	39 災害時におけるこどもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> こども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体、学校、病院等と連携するなど、体制をもって避難訓練等を実施している。	○

【コメント】

火災や地震、大雨による土砂崩れ、津波などに対する防災マニュアルを整備している。防災委員会の取り組みにより、災害の時には全職員と連絡が取れるようにしている。昼間災害が発生した時は、小学生は職員が迎えに行き、中・高校生は個人の携帯で安否確認ができるようにしている。月1回避難訓練を行い、年1回は停電を想定して、広場にブルーシートを敷いてガスコンロで炊き出し訓練を行ったり、夜間想定訓練を行っている。地域交流室や各寮に、非常食や飲料水を100人分備蓄し、管理は防災委員が担当している。

## 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、こどもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	

【コメント】

「生活支援ハンドブック」に、児童養護施設としての支援方法をまとめている。「生活支援ハンドブック」には、法人の理念から、こどもへの支援などを網羅し、標準的な実施方法の手引きとしている。各会議の開催時には、ハンドブックの該当項目を確認しながら、検討している。子ども一人ひとりの背景や生活に対する課題は異なり、ケースごとに基本に合った支援かどうか確認している。

② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員やこども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

「生活支援ハンドブック」は、こどもたちからの意見や要望に合わせ、内容の見直しを行っている。こどもの生活スタイルも変化し、また、社会生活も変わってきているため、現在、「生活支援ハンドブック」の全体の見直しに着手している。「生活支援ハンドブック」には、多くの項目が網羅されているため、見直しにあたっては、それぞれの寮にハンドブックの一部をプリントして配布し、項目ごとに全職員の意見を集約するところから始めている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、こども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、こどもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

こどもたちの自立支援計画の作成は、これまで、職員を中心に行ってきたが、計画はこどもたちのものであり、こどもと一緒に作る方向に変更している。こどもと担当者が話し合い、どんな生活を送りたいか確認し、自立支援計画案を作成している。そして、こどもと担当職員、児童相談所のケースワーカーの三者が集まり、こどもを中心に自立支援計画をまとめている。目標はこどもによって異なり、三食きちんと食べる、幼稚園を頑張る、アルバイトで貯金をするなど、自分で考えた目標を計画書に載せている。自立支援計画は、施設長その他寮内の職員に周知して支援を行っている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、こどもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

こどもの自立支援計画は、半年ごとに見直しを行っている。見直しにあたっては、こどもと担当職員が半期の振り返りを行い、場合によっては目標を変更している。ほとんどのこどもが目標を継続しているが、精神科に通院を始めたり、学校を退学した時などは、あらたな目標を設定している。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 こどもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> こどもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

各寮ごとに職員室にパソコンを置いている。パソコン内には「生活支援ハンドブック」や「個別支援計画書」「資金計画」などが入っている。職員は内容を共有して、子どもたちを支援している。パソコンの管理は、個人情報保護規程で決められており、職員室を離れる時は、必ずパソコンをクローズして退出している。

②	45 こどもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、こどもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、こどもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

書類などの管理規程を定めている。書類の管理に関しては、責任者を施設長とし、個人情報に関するものは事務所の鍵のかかる書庫の中に保管している。設立当初からのケースの記録を保管しているが、情報開示の請求を求められたことはこれまでない。

内容評価基準（24項目）

A-1 こどもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) こどもの権利擁護	第三者 評価結果	
①	A1 こどもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> こどもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

子どもの権利擁護については、「就業規則」や「生活支援ハンドブック」に明記し、各寮に置いて、職員が内容を確認できるようにしている。年2回、県のこどもの意見表明支援事業で、「チームあどぼ（専門員のチーム）」の訪問があり、こどもと話をする機会を設けている。また、年2回、こどもが希望する職員と話をする「ESH（イー・エス・エイチ）」を行っている。こどもたちは、担当ではない職員だからこそ、話せることがある。寮内でのこどもたちの関係や困っていること、誰にも言えないことなどを聞き取り、権利侵害の防止と早期発見につなげている。年6回、外部講師を招き、虐待防止などのテーマで内部研修を行っている。こどもの入所時には礼拝などの説明を行っている。キリスト教精神を基にした施設ではあるが、参加は本人の意思で、こどもの自主性に任せ自由になっている。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 こどもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間でこどもの権利に関する学習機会を持っている。	○

<input type="checkbox"/> こども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	
<input type="checkbox"/> 年下のこどもや障がいのあるこどもなど、弱い立場にあるこどもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

こどもの入所時には、児童相談所のケースワーカーが「権利ノート」や個人の権利について説明している。小学生以上は、「権利ノート」を各自の部屋に置いているが、寮で預かり、管理しているこどももいる。ESHは権利侵害を防止する取り組みであるため、こどもに権利について説明する場にもなっている。幼児は、生活の中で気持ちを汲み取るよう支援している。こどもたちが一緒に遊ぶ時には、年下のこどもには優しくするよう、こどもたちに伝えている。こどもに気になる言動がみられた時には、こどもと職員が話し合い、考える時間を作っている。思いやりや優しさが見える行動は、その場で褒めるようにし、周りのこどもにも伝わるよう支援している。

(3) 生い立ちを振り返る取組

① A3 こどもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/> こどもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	
<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、こどもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
<input type="checkbox"/> こども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	
<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、こどもの生い立ちの整理に繋がっている。	

【コメント】

生い立ちを振り返るタイミングは、こどもそれぞれで異なっており、児童相談所と連携を取り、ライフストーリーワークを行っている。その後のこどもの気持ちの変化に気を付け、疑問に答えられるよう、ホーム職員が対応している。生い立ちの振り返りは、こどもがゆっくり考えることができるタイミングで行うことが多い。職員間で状況を共有し、子どもの様子に変化がないか気を付けている。また、こども一人ひとりに、アルバムを用意している。アルバムの整理は、担当職員とこどもと一緒にしている。その際に、こどもから幼少期やホームに来たときの話をすることがあり、写真を見ながら振り返っている。写真はデータでも保存し、職員が管理している。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

① A4 こどもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・こども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
<input type="checkbox"/> こどもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、こどもに周知し、こども自らが訴えることができるようにしている。	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料をこども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、こどもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

職員は「生活支援ハンドブック」や「養育ブック」などで、子どもたちへの関わり方を確認しながら支援している。職員は子どもの部屋には、基本的に入らないようにしている。死角を作らない対応として、共有スペースは全体を見渡すことができるよう、ソファやテレビの位置を工夫している。子どもに対する不適切な関わりがあった場合には、職員同士で注意するようにしている。職員間で意見を言える、話し合える関係作りに努めている。職員は子どもの手本となる言葉遣いに心掛け、「わからないよ」などの返答はせず、「確認するね」など、丁寧な対応に努めている。年6回の内部研修では、不適切な関わりについての研修も行っている。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更、里親等委託にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

子どもの入所時は、児童相談所のケースワーカーから子どもの状況の説明を受けるとともに、職員が乳児院や一時保護所で子どもに面会している。その後、ホームに見学に来てもらい、昼食を食べてもらったりしている。子ども一人ひとりの状況が違いため、児童相談所と相談しながら、入所日を決めている。また、通学を予定している学校と情報を共有して、安心して通学ができるようにしている。入所日には、子どもの好きなキャラクターや色の食器を用意して迎え入れている。入所間もない子どもには、職員が外遊びや寮内でのゲームなどを一緒に行い、子どものことを理解するようにしている。遊びの中で、子どもから心を開いてくれることもある。低年齢の子どもは職員が寝かしつけ、愛着関係を築くようにしている。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

担当職員と自立支援担当職員が中心になり、自立に向けた取り組みを行っている。高校3年生には、退所後の一人暮らしの生活について話し合っている。一人暮らしの体験ができる自立体験棟がホーム内にあり、そこでの体験を数回行い、具体的な話につなげている。年数回、お金の管理ややり繰りの体験もできるようにしている。職員は何ができるのか、何を支援していくのか、全職員で情報を共有している。退所後も担当職員とのつながりを維持し、「いつでも連絡していいよ」と伝えている。「ホームにもいつでも帰ってきていい」と伝え「おかえり」と言って迎えている。子どもから家賃の滞納や困りごとについて連絡を受けることがあり、元担当職員や自立支援担当職員が対応している。対応した内容は自立アフターケア簿に記録を残している。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本

①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかりと受け止めている。	第三者 評価結果
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○

<input type="checkbox"/>	こどもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、こどもの心に何が起きているのかを理解しようとしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	こどもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	こどもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	<input type="radio"/>

【コメント】

こどもたちは、さまざまな背景を抱えて入所している。時には、イライラする気持ちや怒りをぶつけてくるこどももいる。職員はこどもの怒りを受け止め、こどもが落ち着いて話ができる場で、気持ちを聞くようにしている。こどもの苦しさを受け止め、こどもに寄り添って、話を聞いている。また、話を聞く職員を変え、誰なら落ち着くことができるのかなどを観察して、職員間で情報を共有し、原因を探るようにしている。必要に応じて、児童相談所とも話し合い連携している。「今日は部屋にいるから話しかけないで」「話をする時間を作って欲しい」など、自分の気持ちを職員に伝えるようになるなど、こどもにも変化がみられている。

②	A8 基本的欲求の充足が、こどもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
<input type="checkbox"/>	こども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	基本的欲求の充足において、こどもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内でこどもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	こどもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々のこどもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	基本的な信頼関係を構築するために職員とこどもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

小さなこどもの入眠時には、絵本を読んだり、話をしたりして、こどもが安心して眠ることができるようにしている。入浴は、小学生以下は夕食前に入り、中・高校生は部活や個々の予定に合わせて入浴している。こどもたちは一人ずつ入浴しているが、小学校低学年まではこどもの入浴は職員が見守って、こどもの状況によって、洗い方がわかるよう教えている。排泄がまだうまくできないこどもには、職員が支援している。バスタオルやハンドタオルなど、個人所有の物を揃えている。学校の友だちが遊びに来たり、こどもたちが友だちの家に遊びに行ったりしている。担当職員がこどもの学校の授業参観や運動会に出席している。

③	A9 こどもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、こども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	b
<input type="checkbox"/>	快適な生活に向けての取組を職員とこどもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	こどもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	こどもがやらなければならないことや当然できることについては、こども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	こどもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

こどもが主体となり、検討したいことなどを話し合う「子ども会」を開催している。子ども会は、小学生会、中学生会、高校生会と、年齢に分かれて開催している。話し合いには職員も参加し、内容は職員間で共有している。「小遣いを値上げて欲しい」「被服費を増やして欲しい」などの意見に対し、内容を検討して対応している。実施が困難なことは、何故難しいのか、わかりやすくこどもたちに伝えている。こどもたちは、余暇時には外遊びやゲームなど、一人ひとりが好きなように過ごしている。こどもたちから誘われて、職員も一緒に身体を動かしている。個別支援計画には、次年度の目標やどのような生活を送りたいか、こどもが自分自身で考えたことを記載している。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
---	------------------------------	---

	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ホーム内のグラウンドには、サッカーゴールやバスケットゴール、アスレチックジムがあり、子どもたちが外遊びを楽しめるようにしている。自転車もすべての年齢に合わせて用意している。低年齢児用に、ブランコも設置している。各寮には、絵本やおもちゃなどを置き、年齢に合った遊び道具で遊べるようにしている。各寮には子ども用のタブレットもあり、動画を見たりしている。子どもたちは学校から帰ると、部屋で宿題を済ませてから遊びに行くようにしている。毎週火曜日には、小学生を中心に宿題勉強会開き、職員が指導している。心理士も入り、学習の状況をみながら、発達の様子を確認している。受験を控えた中学生は、塾に通っている子どももいる。ピアノや剣道、絵画、スイミング、サッカーなどの習いごとに通っている子どももいる。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくよう支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

日々の生活の中で、「おはよう」の挨拶から始まり、食事のマナーや箸の持ち方、入浴の前には排泄をすること、浴槽への入り方などを伝えている。就寝時間や起床時間、守らなければいけないルールも、その都度、伝えるようにしている。「タブレットゲームを使う約束」を、寮内に掲示したりしている。電車やバスの乗り方や、切符の買い方がわからないなど、子どもからも相談があり、入学前までに一人ひとりの子どもに合わせ教えている。昨年度より中学生から携帯電話を持つことができるようになり、4月には携帯電話会社から講師を招き、新中学1年生がセミナーを受けるようにしている。携帯やスマートフォンについての利用規則や誓約書などは、生活支援ガイドブックにも記載している。子どもたちは外から帰ると、手洗いが自然にできるようになっている。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

食事は給食室で調理したものを、毎食、職員が受け取りに行き、各寮に運んでいる。食べたことのない食材や偏食には、食べられるものから食べてもらい、小さな子どもには「給食さんが作ってくれたから、少しだけでも食べてみよう」と声をかけている。食事は、子どもたちのコミュニケーションの場になっている。食物アレルギーのある子どもには、除去食を提供している。栄養士が献立表にチェックし、職員は情報を共有して対応している。子どもの体調が悪い時には、ゼリーやプリン、うどんなど、食べやすいものを寮で用意している。栄養士は検食簿を確認し、月1回の給食委員会で各寮のこどもの希望を聞き、献立に反映している。日曜日には、職員と一緒におやつ作りを楽しんでいる。誕生日には、各寮で誕生日パーティーを開いている。クリスマス会も各寮で行っている。各寮には「サンタさんへのお手紙BOX」が置いてあり、クリスマスの夜にサンタクロースからのプレゼントを届けている。冷蔵庫のチェックは、定期的に看護師が行っている。高校生のお弁当は、夜勤の職員が作っている。

### (3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理をこどもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

#### 【コメント】

小・中学生は職員と一緒に衣服の買物に行ったり、インターネットで自分の好きな服を選んで購入している。高校生は自分の好みのもを、一人で出かけ購入している。ホーム内で、お下がりや取り取りをすることもある。物価の高騰もあり、被服の購入費用の増額を行っている。女子の極端に露出が多い服は、職員が声をかけている。着替えをなかなかしない子どもには、職員が着替えを促している。衣類は一人ひとりが自室で管理しているが、幼児は職員が支援している。整理や管理が苦手な子どもには「片付けをやりたいのか、やりたくないのか」本人の気持ちを確認して、職員と一緒に片付けるようにしている。穴が空いた衣類の補修やボタン付けなどは、こどもの前で、やり方を見せながら行っている。七五三には、ホームで用意している着物を着て、写真を撮ってお祝いしている。入学式や卒業式にはホームのスーツやレンタルしたものを着て、参加している。

### (4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達やこどもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

#### 【コメント】

職員室（夜勤室）を中にして、2つの寮が左右対称につながった作りになっており、緊急時には隣りの寮の応援ができるようにしている。各寮には、リビングやキッチン、大小の浴室や洗濯室がある。子どもたちの部屋は1階と2階にあり、1、2階は吹き抜けの作りで、子どもたちの部屋が見渡せるようになっている。リビングは広く、各寮で、テレビや家具のレイアウトを決めている。トラブルにつながるため、共有スペースに私物は置かないことにしている。子どもたちの部屋は、好きなキャラクターのぬいぐるみを置き、写真やポスターなどを貼り、それぞれが居心地のいい空間を作っている。子どもたちは自分の部屋は自分で管理し、整えるようにしている。片付けが苦手な子どもには、必要に応じて職員が介入して支援している。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

日々の生活の中で、職員は子どもの健康状態を確認している。発熱や体調不良がみられた時は、看護師に連絡して指示を受けている。必要に応じて、担当職員や看護師が付き添い、病院に受診している。感染症に罹患した場合は、家庭支援棟を使用して、隔離の対応を取ることもあるが、通常は自分の部屋で安静にするようにしている。年1回、嘱託医による健康診断を全員の子どもが受けている。インフルエンザの予防接種も受けるようにしている。子どもが服用している薬は、薬のカレンダーを使用して、職員が管理している。薬は必ず職員の前で服用してもらい、小学生には口に薬を入れる支援を行っている。心の不調に関しては、心理士や職員が対応しているが、不十分な面もある。

(6) 性に関する教育

①	A16 こどもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、こどもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

幼児、小学低学年、小学高学年、中学生、高校生と、年齢や性別に分かれて、性について学ぶ機会を作っている。それぞれの年齢に合わせて、わかりやすい言葉を使いながら、説明を行っている。夏と冬の子ども集会では、プライベートゾーンなどの話もしている。「生活支援ハンドブック」にも、性教育に関して記載している。性差による身体の違いやプライベートゾーンについて、信頼関係のある職員から話をしている。希望する女子には、看護師がヤングメモリーを配布し、健康管理の指導をしている。必要に応じて、児童相談所の看護師と連携を取り、アドバイスをもらっている。ESHの取り組みは、こどもの性的な加害や被害の早期発見、防止につながっている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 こどもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲のこどもの安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、こどもの行動上の問題の軽減に寄与している。またこどもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	○

【コメント】

ESHの取り組みは、暴力や不適応行動の早期発見や予防につながっている。不適応行動は見えないところで起こることが多いので、ESHでは「遠慮なく、言ってね」となんでも話しができるように取り組んでいる。こどもに行動上の問題が起きた場合には、場所を変えたり、対応する職員を交代するなど複数の職員で関わるようにし、こどもが落ち着けるよう配慮している。こどもからの話をよく聞き、原因を探り、寄り添った支援を提供している。問題や状況は職員間で共有し、引き継ぎを行っている。児童相談所に報告して、連携するケースもある。リーダー職員を中心に、職員がチームを組んで対応している。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題が発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	○

【コメント】

ESHの聞き取りを続けてきた結果、子どもからいじめや暴力などの話を職員に話すことができるようになってきている。子どもの方から「ESHがやりたい」と言うこともある。子ども同士の関係も把握しやすくなっている。子どもたちの遊びに誘われて職員が入り、サッカーや野球など一緒に行うことがある。その時も子どもたちの関係性に気を付けている。子ども同士に不適切な関わりがあった場合には、適時、職員が介入し、様子を見なが関係の修復を行っている。子どもたちからのSOSの発信に気づき、適切な対応ができるよう取り組んでいる。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

週1～2日、心理士が勤務し、希望する子どもに心理療法室で心理的ケアを行っている。心理療法室にはおもちゃを置くなど、子どもが落ち着いて話ができる環境を整えている。心理士は1日に3人程度の子どもと面接している。また、必要な子どもには、定期的に児童相談所の心理士が面接を行っている。児童相談所と連携を取り、面接の内容は寮で把握し、記録に残して職員間で情報を共有している。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

子どもたちは、それぞれの居室で学習している。図書室の利用や、寮にはパソコンを設置し、パソコンを使って調べものをすることもできる。週1回、宿題勉強会を開き、職員が子どもたちの勉強を見ている。子どもたちの学力を把握し、それぞれに応じた支援に取り組んでいる。子どもが通う学校とは、月1回、連絡会を行い、担当職員と学校の先生とで連携を取っている。同一敷地内にある学校に通っている子どももいるが、1クラス10人程度の少人数制で、学力の低い子どもに丁寧な教育を行っている。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 児童自立生活援助事業、社会的養護自立支援拠点事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、積極的に措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

子どもの進路の決定は、自立支援担当職員を中心に支援している。敷地内に小・中学の学校があるが、どこの学校に進学するかは、自分で選べるようにしている。進路の選択は、関係する大人が集まり、自立支援検討会議を開催し、一人ひとりの子どもが適正に進路の決定ができるようにしている。中学生は、2年生頃から高校進学について、担当職員と話し合いを始めている。希望する学校の情報を集め、子どもが具体的に考えられるようにしている。大学進学を希望する子どもには、奨学金制度の活用など、情報を提供している。自立支援の取り組みで、地域の大学の協力を得て、「未来について考えてみよう」というセミナーを開き、「大学ってこんなところ」「こんな勉強をする」などの情報を子どもたちに提供している。子どもたちが大学進学をイメージでき、進路の決定につながる取り組みになっている。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

高校生になると、社会体験としてアルバイトに取り組んでいる。現在、高校生がファミリーレストランや焼き肉店、コーヒショップなどでアルバイトを行っている。アルバイト先は、子どもたちが自分で見つけている。子どもから「アルバイト先で怒られる」などの悩みを聞くこともあり、職員が話を聞いて必要な支援を行っている。特別支援学校に通っている子どもの現場実習は、学校の指導に任せ、その子どもに合った実習を行っている。担当職員と本人で実習先に挨拶に行き、実習後は反省会に職員も参加している。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○

	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後のこどもの様子を注意深く観察し、不適切なかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員が家庭との連絡調整を行っている。家庭への連絡は、児童相談所のケースワーカーと連携を取りながら行っている。担当職員が、面会や交流がある保護者に、ホームでの生活の様子や学校での様子を伝えている。また、定期的に手紙で成長の様子などを伝えている。こどもが夏休みに長期帰省した後は、生活が崩れることや精神的に不安定になることがある。職員はこどもの様子を受け止め、低学年のこどもには、部屋と一緒に入って安心してもらうなど、こどもに寄り添ったフォローを行っている。ホームの行事に、保護者は招待していない。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

最近、家庭復帰したこどもは2名いる。家庭復帰は、家庭支援専門相談員と担当職員が中心になり、手順を踏んで行っている。児童相談所のケースワーカーと連携し、園内での面会から始め、近く（町内）での外出面会、少し遠いところ（町外）での外出面会、外泊につなげている。外泊も月1回から始め、毎週末、夏休みなどの休みを利用した長期外泊と、段階を重ねている。それぞれの段階で、こどもから話を聞いたり、様子をよく観察するようにしている。ホーム内には、宿泊可能な親子訓練室がある。また、家庭再統合調整会議を開催し、話し合いを行っている。こどもの置かれている状況は、職員間で共有し、全体で取り組むようにしている。